番外編４：論文書きの基本的心得

改訂版：２００４年１２月７日　（金盛　長）

登場人物：間占　通：経済学講師
森々　元気：大学院生

[状況設定：間占が計算機に向かって仕事としているところに森々が紙切れを持って現れる]

森々：間占さん、この間、大学院生と先生方との懇談会がありまして、そこで幾人かの先生が論文の書き方について話してくれました。そこで、新月先生も「論文書きの基本的心得」について話してくれました。

間占：そうですか、新月先生はどんな話をしたんですか？

森々：新月先生は「論文書きの心得 A」と「論文書きの心得 B」というのを配り、学生にどちらを選ぶかと訊きました。心得 A と心得 B でどちらが良く出来ているかということです。

間占：その心得 A と心得 B を持っていますか？

森々：それをここに持ってきました。

間占：見せてください。ふーん、新月先生らしいな。それで、学生さんはどちらが良いと答えたんですか？

森々：他の学生は全然反応しなかったので、僕はあまり考えずに「心得 A のほうが短くていいんじゃないですか」と答えました。そうしたら、新月先生は「そう答える学生がいると思っていましたが、自分が指導している学生がそう答えるとはね」なんて言いました。それで、心得 A と心得 B を良く見たら、確かに心得 B の方が良くまとまっていました。それで、先生が心得の各項目を説明してくれました。
　それに最後に英語版も配ったのですが、それを良く見たら心得 B を英訳したものだと思います。英訳は心得 B より詳しく書いてあるようです。

間占：それで、森々君は新月先生がなぜ心得 A と心得 B を用意した理由は分かっていますよね？

森々：あれ、単にどちらが良く出来ているかという問題じゃないんですか？

間占：心得の中に起承転結とか Parallelism とか Contrast とかの構造が必要だと書いてありますね。そういう構造を持っていない心得 A とそれを明確にしている心得 B を用意して、どちらが良く理解できるかを示したんですよ。

それと言葉は丁寧だけど、ちっとも読者や聞き手を考えない例を心得 A で示したかったんでしょう。

森々：へー、そういうものなんですか。

間占：でも、えーと、心得 A の（1）、B では（１０）なんて大学院生の論文書きの問題じゃなくて、一人前の学者にだって難しいと思いますよ。新月先生にとっても結構難しいことだと思うのですが。

心得 B の（１２）はまさしくその通りと思います。これは特に大学院生が肝に銘じて欲しいですね。

森々：そうなんですか。僕なんか、論文は Journal に載りされすれば良いと思っていました。

間占：やはり、そういう考えはやめるべきでしょう。本当は、論文をどのように書くかを考えるより、人に伝えたいと思うような研究成果を出すのが先決でしょう。良い成果がでればそれを多くの人に伝えたいと思い、そのために良い論文の書き方を考える。心得 B の基本（２）はそういう意味ですよ。

森々：でも、新月先生は何年も成果が上がっていないという噂なのに、研究成果も上げずに論文の書き方について考えているんですか？

間占：そうかもしれません。でも新月先生は自分もこれからだと思って頑張っているんだと思いますよ。だから、自分自身のため、英訳まで作っているんですよ。英訳のタイトルは「論文書きの１２戒」ですもね。

論文書きの心得 A

論文書きの心得に関して思いつくまま書いてみますが、賢明なる皆様には自明なことばかりかもしれません。質問もあるかもしれませんが、時間も短いので質問は最後の 2 分にまとめてお受けします。

（1）論文の新しさや他の研究との違いや評価についても、読者に考えてもらうのでなく、本人が書く。

（2） 論文の 起承転結 をよく考える。

起 ― initiation

承 ― Development

転 ― change

結 ― Conclusion

（3） 何のために、誰のために、論文を書くのかをよく考える。

（4） 章と章の、節と節の繋ぎを書く。最終的には文章と文章の繋ぎも考える。

（5） 辞書を何回も引け。

（6） 基本は研究成果を他者に知ってもらうことである。

（7） 書き手である自分と読み手としての他者の違いは何かを考える。読み易くする苦労は書き手が担う。

（8） 他人（審査員）がその論文をまとめられるような「まとめ」を論文中につける。

（9） 個々の部分ばかりでなく、論文の全体像と構成についても書く。

（１０）すべてを並列に並べるな。平坦にするな。 Parallelism と Contrast をよく考える。

（１１）読み手に論文の主要貢献を理解できるように、書き手が努力をする。

（１２）「同じ表現は繰返して使うな！」には気をつけろ。

以上思いつくまま書き出してみましたが、自明なことばかりで誠に申し訳ありません。時間がなくなってしまい、質問は受けられませんので、あしからず。しかし、私の注意が少しでも皆様のお役に立てば幸いに存じあげます。

論文書きの心得 B

基本

（1） 何のために、誰のために、論文を書くのかをよく考える。

（2） 基本は研究成果を他者に知ってもらうことである。（論文は、単に博士号の取得・論文の出版等だけを目的にするな）

（3） 書き手である自分と読み手としての他者の違いは何かを考える。読み易くする苦労は書き手が担う。

構造

（4） 論文の 起承転結 をよく考える。

起 － Initiation

承 － Development

転 － Change (something new)

結 － Conclusion

（5） 個々の部分ばかりでなく、論文の全体像と構成についても書く。

（6） 章と章の、節と節の繋ぎを書く。最終的には文章と文章の繋ぎも考える。

例えば、 … have succeeded in … 。 This success is …

注意

（7） すべてを並列に並べるな。平易を心がけるが、平坦にするな。 Parallelism と Contrast （Positive and Negative）をよく考える。

（8） 辞書を何回も引け。（ただし、英語で論文を書くときは、「和英」は出来る限り使うな、「英和」を使って、最後は「Webster」を引け）

（9） 「同じ表現は繰返して使うな！」に惑わされるな。技術的単語は同じものを使い、途中で変えるな。

結論

（１０）論文の新しさや他の研究との違いや評価についても、読者に考えてもらうのでなく、本人が書く。

（１１）他人（例えば、審査員）がその論文をまとめられるような「まとめ」を論文中につける。

（１２）読み手に論文の主要貢献を最小限の努力で理解できるように、書き手が最大限の努力をする。

Twelve Commandments for Writing a Paper

Basics

1. Think about your audience.
2. The purpose of writing a paper is to convey new information to other people. Don't write a paper just to publish it or to obtain a degree.
3. You are responsible for making the paper readable by others. Think about the differences of perspective and information that exist between you as a writer and others as readers. You will typically know more about the subject than your reader. Don't forget it.

Structures

4. The structure of the paper is important and needs to be consistent, coherent, and well thought out. For example, Chinese classic poems should have the following structure:
   (a): Initiation (b): Development
   (c): Change (relative to (a) and (b)) (d): Conclusion
5. Do not get bogged down in details. Remember to explain and keep the reader in touch with the entire picture and structure of the paper.
6. Think about connections between sections, between paragraphs, and ideally between sentences. For example, … have *succeeded* in… . This *success* is …

Remarks

7. Write plain and clear sentences and avoid tedium.
8. Consult your dictionary often. Compare each important word with its synonyms and antonyms.
9. Don't be afraid to use the same word over again. Technical words should not be altered; otherwise, you will confuse readers.

Conclusions

10. Explain the novelty and difference of the paper relative to the existing literature. Don't leave it to the reader.
11. Write a summary of the paper within the paper itself for others to use as a description of the paper.
12. Exert maximum effort in writing so that the reader can capture the contribution of the paper with minimum effort.